

日本BS放送株式会社

2017年8月期 決算補足説明資料

2017年10月6日



東証一部 コード: 9414

2017年8月期 総括

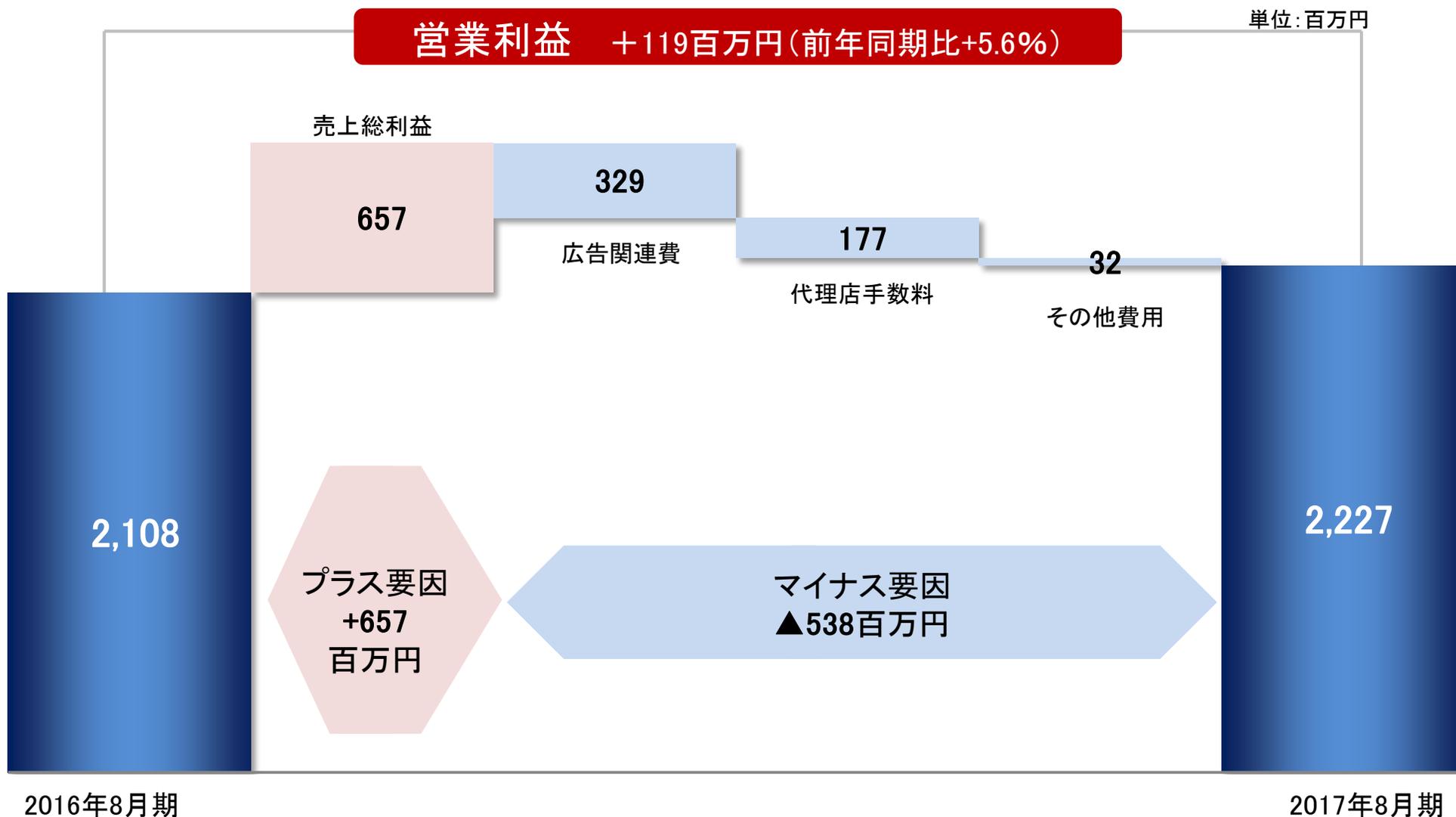
売上高 **11,569百万円** (前期比 13.3%増)

営業利益 **2,227百万円** (前期比 5.6%増)

- 売上高は、前年を大きく上回ったものの、計画比は若干の未達
- 営業利益は、効率的な原価・経費使用に努め、計画・前年を上回って推移
- 高品質な自社制作番組と人気番組の購入による広告枠の付加価値向上
- 番組視聴世帯数増加を目的とした効果的な広告宣伝の実施

(単位:百万円、下段は構成比)

	2016年8月期	2017年8月期						
		実績	前年比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因(計画比)
売上高	10,212 (100.0%)	11,569 (100.0%)	+13.3%	+1,357	12,000 (100.0%)	▲3.6%	▲430	(売上高) ・タイム収入…▲335百万円 ・スポット収入…▲116百万円 ・その他収入…+20百万円
売上総利益	5,583 (54.7%)	6,241 (54.0%)	+11.8%	+657	—	—	—	(段階利益)
営業利益	2,108 (20.6%)	2,227 (19.3%)	+5.6%	+119	2,200 (18.3%)	+1.3%	+27	・売上高計画未達ながら、経費効率化の徹底により利益計画を達成
経常利益	2,137 (20.9%)	2,231 (19.3%)	+4.4%	+94	2,200 (18.3%)	+1.5%	+31	《利益増加の具体的要因》 ・番組関連費用(売上原価)や広告関連費用(販管費)への費用の集中投下を適切にコントロール ・その他経費項目を効率的に使用
当期純利益	1,460 (14.3%)	1,518 (13.1%)	+3.9%	+57	1,460 (12.2%)	+4.0%	+58	



(単位: 百万円、下段は構成比)

	2016年8月期	2017年8月期			
		実績	前年同期比	計画	計画比
売上高	10,212 (100.0%)	11,569 (100.0%)	+13.3%	12,000 (100.0%)	▲3.6%
タイム収入	7,486 (73.3%)	8,541 (73.8%)	+14.1%	8,876 (74.0%)	▲3.8%
スポット収入	2,530 (24.8%)	2,755 (23.8%)	+8.9%	2,871 (23.9%)	▲4.0%
その他	195 (1.9%)	272 (2.4%)	+39.2%	251 (2.1%)	+8.2%

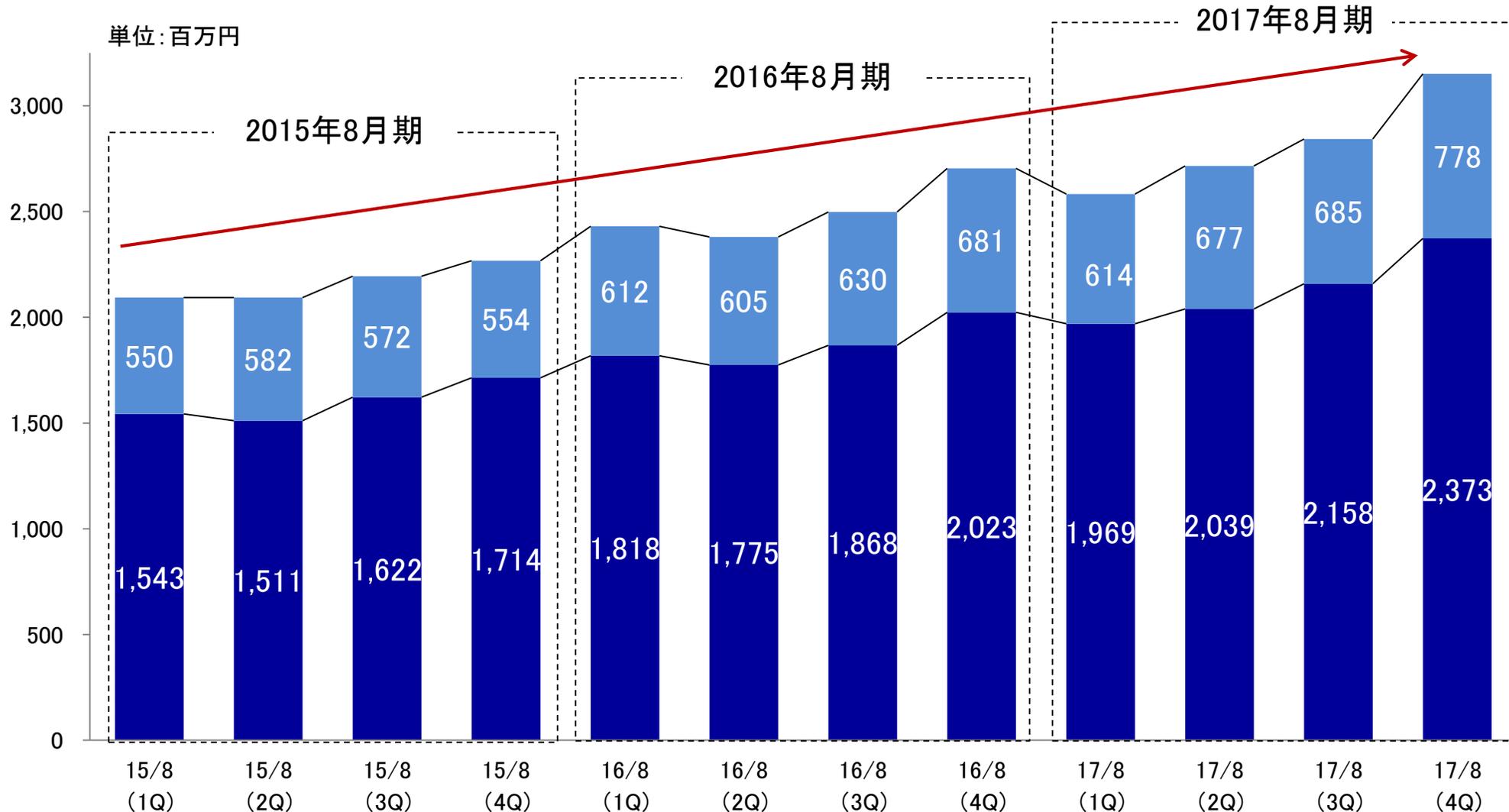
主な増減要因(前年同期比)

- タイム収入
 - ・番組提供枠の販売が好調に推移
 - ・効果的な番組編成を行うことで、通販枠販売が堅調に推移
- スポット収入
 - ・BS放送の媒体価値向上に伴い、純広スポットが順調に増加
 - ・人気ドラマを編成することで、通販スポット販売が引き続き堅調に推移
- その他
 - ・アニメ制作委員会への出資に伴う配当金収入、番組販売に伴う収入等の増加

◆ 売上高の変動に季節的要因はなく、引き続き増加トレンド

■ スポット ■ タイム

単位: 百万円



主要費用項目実績

(単位:百万円、下段は売上比)

	2016年8月期	2017年8月期		
		実績	前年同期比	主要な増減要因
番組関連費用(原価)	2,860 (28.0%)	3,400 (29.4%)	+18.9%	
番組購入費	527 (5.2%)	528 (4.6%)	+0.2%	
番組制作費	2,333 (22.8%)	2,871 (24.8%)	+23.1%	制作番組の内容充実による増加
放送関連費用(原価)	667 (6.5%)	630 (5.5%)	▲5.5%	
放送委託費	555 (5.4%)	555 (4.9%)	-	
技術費	111 (1.1%)	75 (0.6%)	▲32.6%	放送関連施設移設費用の減少 (前年:放送関連施設移設に伴う費用の増加)
広告関連費用(販管費)	1,083 (10.6%)	1,413 (12.2%)	+30.4%	
広告宣伝費	1,002 (9.8%)	1,330 (11.5%)	+32.7%	番組視聴世帯数増加に向けた広告宣伝活動の強化による増加
販売促進費	81 (0.8%)	82 (0.7%)	+1.4%	

貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要

貸借対照表

(単位:百万円、下段は構成比)

		2016年8月期末	2017年8月期	
			実績	増減額
流動資産		8,993 (56.3%)	10,252 (59.4%)	+1,259
	固定資産	6,986 (43.7%)	7,002 (40.6%)	+16
資産合計		15,980 (100.0%)	17,255 (100.0%)	+1,275
流動負債		1,640 (10.3%)	1,694 (9.8%)	+53
	固定負債	59 (0.3%)	65 (0.4%)	+6
負債合計		1,699 (10.6%)	1,759 (10.2%)	+59
純資産合計		14,280 (89.4%)	15,496 (89.8%)	+1,215
負債・純資産合計		15,980 (100.0%)	17,255 (100.0%)	+1,275

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2016年8月期	2017年8月期
営業キャッシュ・フロー	1,612	1,542
税引前当期純利益	2,161	2,231
減価償却費	258	221
売上債権の増減額(▲は増加)	▲339	▲152
仕入債務の増減額(▲は減少)	136	47
未払費用の増減額(▲は減少)	17	44
法人税等の支払額	▲736	▲823
投資キャッシュ・フロー	▲566	▲91
有形固定資産の取得による支出	▲565	▲73
財務キャッシュ・フロー	▲284	▲312
配当金の支払額	▲266	▲302
現金及び現金同等物の増減額	761	1,137
現金及び現金同等物の期首残高	6,131	6,893
現金及び現金同等物の期末残高	6,893	8,031

単位: 百万円

売上高

単位: 百万円

タイム収入

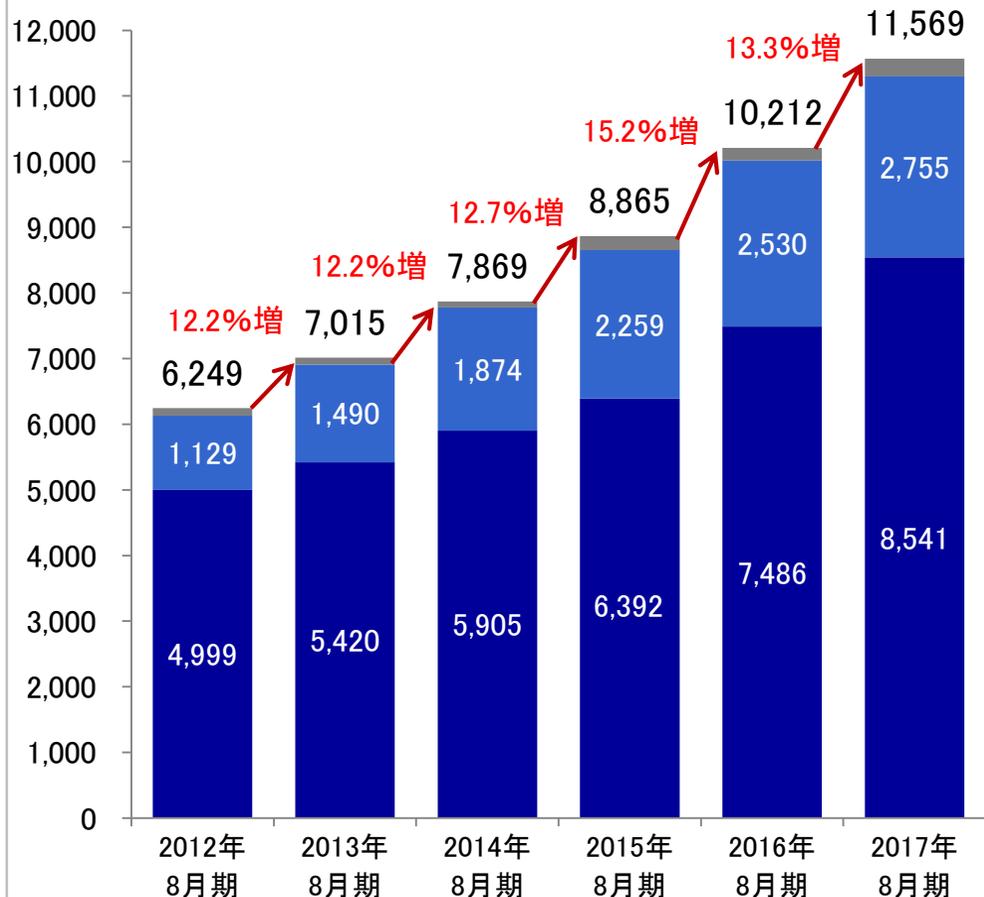
- ・広告主に番組の放送時間枠を販売
- ・広告主の提供する番組およびCMを放送

スポット収入

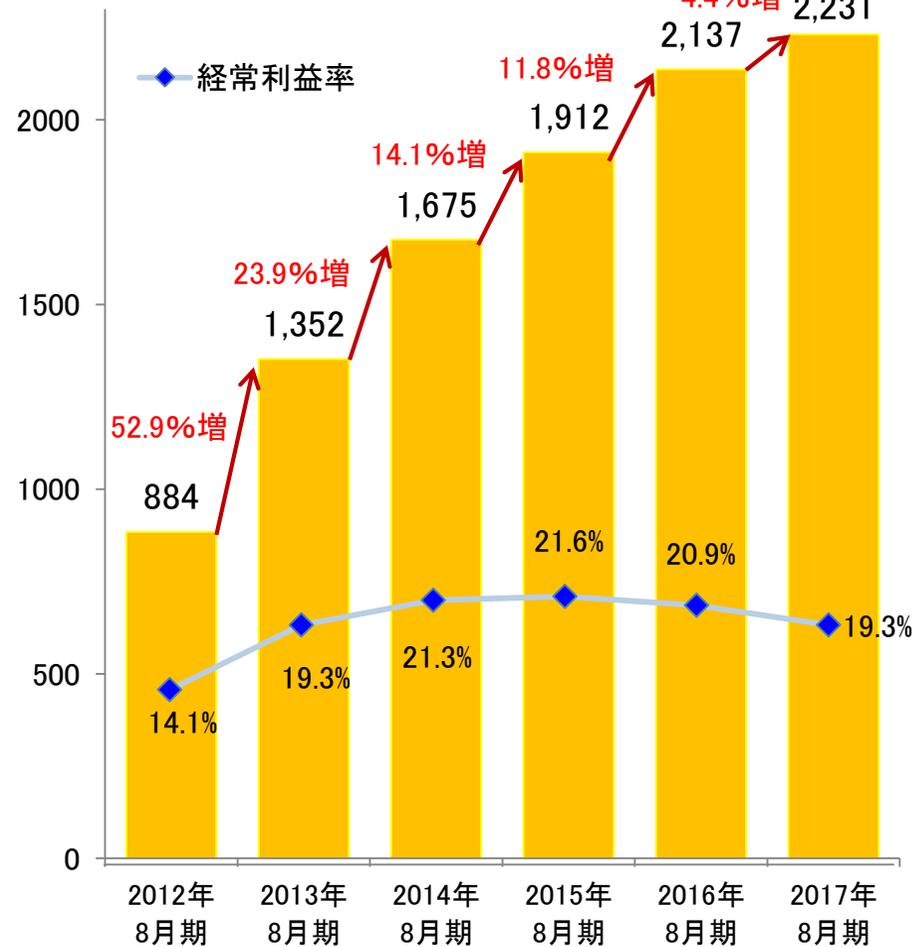
- ・広告主に番組と番組の間の時間枠等を秒単位で販売
- ・広告主のCMを放送

その他収入

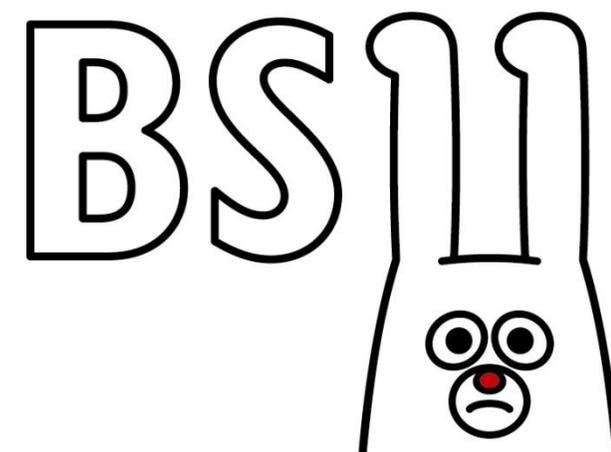
- ・地上波ローカル局等への番組販売
- ・番組制作による収入



経常利益



Ⅱ 通期計画



売上高は**12,750**百万円(前期比10.2%増)、営業利益は**2,230**百万円(前期比0.1%増)、
当期純利益は**1,540**百万円を計画(前期比1.4%増)

(単位:百万円、下段は構成比)

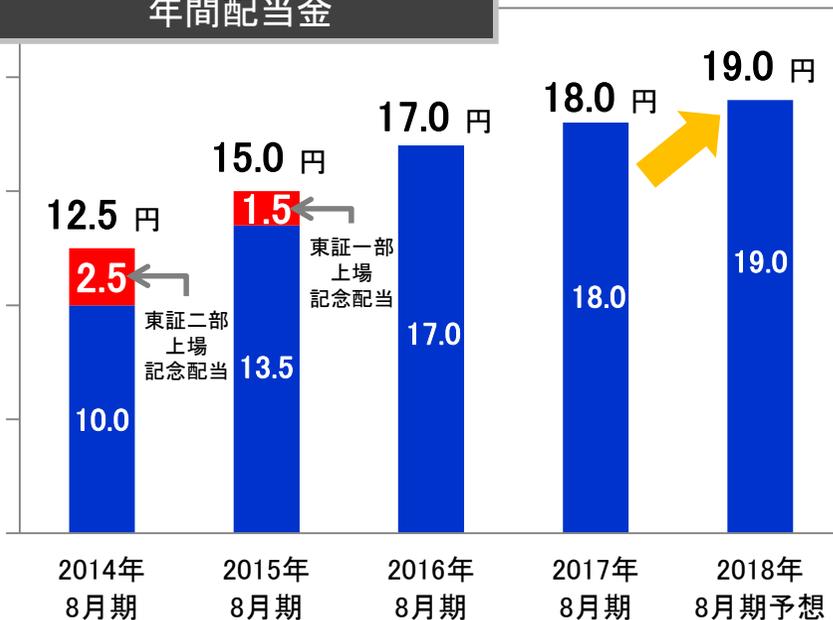
	2017年8月期		2018年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			計画	前年同期比	計画	前年同期比	増減額
売上高	5,408 (100.0%)	11,569 (100.0%)	6,100 (100.0%)	+12.8%	12,750 (100.0%)	+10.2%	+1,180
タイム収入	4,009 (74.1%)	8,541 (73.8%)	4,432 (72.7%)	+10.5%	9,078 (71.2%)	+6.3%	+536
スポット収入	1,291 (23.9%)	2,755 (23.8%)	1,511 (24.8%)	+17.0%	3,266 (25.6%)	+18.5%	+510
その他	107 (2.0%)	272 (2.4%)	157 (2.6%)	+46.3%	405 (3.2%)	+49.0%	+133
営業利益	1,189 (22.0%)	2,227 (19.3%)	1,130 (18.5%)	▲5.0%	2,230 (17.5%)	+0.1%	+2
経常利益	1,190 (22.0%)	2,231 (19.3%)	1,130 (18.5%)	▲5.1%	2,235 (17.5%)	+0.1%	+3
当期純利益	813 (15.0%)	1,518 (13.1%)	780 (12.8%)	▲4.1%	1,540 (12.1%)	+1.4%	+21

期末配当金を1円増配、19.0円を計画

配当政策の基本方針

- ・ 当社は、BSデジタル放送事業者という高い公共性に鑑み 永続的且つ健全な経営の維持に努めるとともに、財務体質の強化と内部留保の充実を考慮しつつ、将来の事業展開等を総合的に勘案した上で、長期にわたり**安定した**利益配当を**継続的に**実施する方針です。
- ・ **年1回**の期末配当を行うことを基本とします。

年間配当金



	2014年8月期	2015年8月期	2016年8月期	2017年8月期	2018年8月期(予想)
年間配当	12.5 円	15.0 円	17.0 円	18.0 円	19.0 円
普通配当	10.0 円	13.5 円	17.0 円	18.0 円	19.0 円
記念配当	2.5 円	1.5 円	0 円	0 円	0 円
1株当たり当期純利益	77.67 円	68.34 円	82.04 円	85.27 円	86.50 円

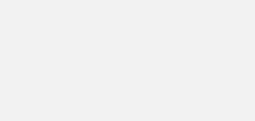
(注) 1. 2013年12月16日付株式分割(1対2)、及び2014年8月1日付株式分割(1対2)を遡及計算して記載。

株主優待制度の概要

- ・ 8月末日、2月末日を基準日として、年2回の株主優待を実施
- ・ ビックカメラグループ全店で利用可能な「ビックカメラ商品券」1,000円券1枚を贈呈
- ・ 各基準日現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式1単位(100株)以上保有されている株主様が対象

長期保有株主優待制度の概要

- ・ 以下の2要件の両方に該当する株主様に対し、「ビックカメラ商品券」(1,000円券)を追加贈呈。
 - ①基準日(毎年8月末日、2月末日)の当社株主名簿に連続3回以上同一株主番号で記載または記録されたこと
 - ②当社株式1単位(100株)以上を継続して保有されていること

基準日		2月末日	8月末日
贈呈時期		5月	11月
贈呈内容	株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚
	長期保有株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚

当社は、『質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します。』との経営理念に基づき、2016年8月期を初年度として策定した3ヶ年の中期経営計画【Forward 18 by Team BS11】を実行してまいりました。

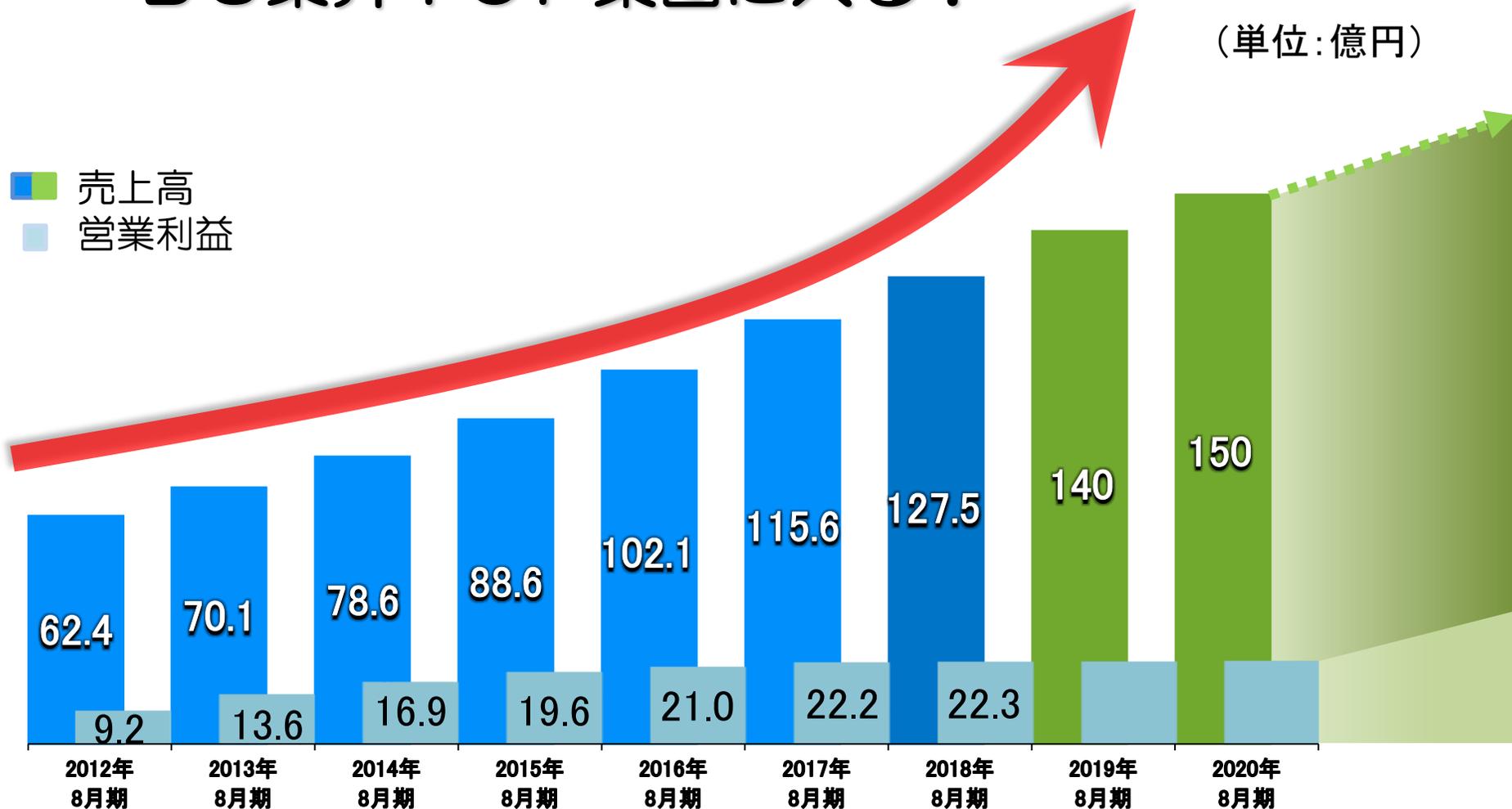
中計初年度の2016年8月期は、目標である売上高102億円、営業利益20億円を達成いたしました。

中計2年目の2017年8月期は、売上高120億円、営業利益22億円達成を目指し、基本戦略『4つの力と5本の矢』を実践してまいりました。当社を取り巻くBS放送業界の動向や基本戦略の実現プロセスの遅延等により売上高目標比では若干の未達となりましたが、売上高実績は115.6億円と前年比13.3%増と大きく成長し、営業利益は経費効率化の徹底により目標の22億円を達成することができました。業界環境の変化等を踏まえたうえで中計最終年度の目標数値修正に関して慎重に検討してまいりました。

最終年度である当期(2018年8月期)につきましては、2015年・2016年のBS放送業界の広告費が前年比各々4%増(「日本の広告費」(株)電通調べ)で推移している業界環境にあるものの、BS放送業界内での地位確立と永続的に成長するために必要な基本戦略の一部見直し等を含め総合的に勘案した結果、新たな目標として売上高を前年比10%増の127.5億円(当初目標比22.5億円減額)、営業利益は良質コンテンツ制作のための投資を積極的に実行する計画から、前年比微増の22.3億円とすることといたしました。

当社は、今後とも引き続き、経営理念である『質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します。』を実現するため、また、2020年8月期には、当初目標である売上高150億円の達成を目指して、Team BS11一丸となり、基本戦略『4つの力と5本の矢』をより強力に実践・推進してまいります。

2020年 売上150億円必達！ ～BS業界TOP集団に入る！～



持続的成長に必要な『4つの“力”』

企画“力”

プロデュース“力”

キャスティング“力”

マーケティング“力”

企画 力 Planning	視聴者やクライアントのニーズを捉え、的確な企画立案
キャスティング 力 Casting	映像の「商品価値」を高めるスタッフ・出演者のキャスティング
マーケティング 力 Marketing	データベースを用いて潜在的な需要を喚起し効果的に戦略実行
プロデュース 力 Produce	皆様の役に立つ、質の高い情報・番組を提供・制作

重点施策としての『5本の矢』



1. 自社制作番組の充実と拡大

- ・ 人気番組に集中して資源を投下
- ・ 番組を「作品」から「商品」へと昇華



2. 情報番組の選択と拡大

- ・ プレミアエイジへのホスピタリティの強化
- ・ イベント等番組連動企画の立ち上げ



3. アニメ番組の強化

- ・ 得意分野の更なる強化
- ・ 目指すのは「アニメといえばBS11」



4. ローカル局とのコラボ

- ・ 独立ローカル局の強みを生かした差別化施策
- ・ 日本各地の「いいもの」を全国へ発信



5. スポーツコンテンツの充実

- ・ 新たなニーズの発掘
- ・ 「BS11ならではの」のコンテンツ作り

- ❑ 本資料は日本BS放送株式会社(以下、当社)の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ❑ 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- ❑ また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

日本BS放送株式会社

経営戦略局 経営戦略部

TEL 03-3518-1900

URL <http://www.bs11.jp/>

